

学会の基本サービス

総務理事 坂庭好一



残念ながら面白い話が浮かびません。今月は言い古された話で御容赦頂かなければなりません。

学会の最も基本的なサービス（あるいは役割）は何でしょうか？ほとんどの皆様は「研究発表と討論の場を提供すること」と答えられるのではないのでしょうか。もちろんそのほかにも学会としてたくさんのサービスがあって、それぞれに重要であることに間違いはありません。しかし、この「研究発表と討論の場を提供する」というサービスの上位に位置するサービスはないといってしまうのでしょうか。「研究発表と討論の場を提供する」ことがなかったら、本学会は存在する意義がないといっても過言ではないでしょう。その意味で、この基本サービスはほかのどのサービスとも比べようがありません。もちろんこのサービスだけで学会が成り立つのではないことは確かです。いつでもバランスは第一に重要です。すべてのシステムが複数の要素から成り、そのバランスがシステム成立の鍵になります。

さて本学会の基本サービスが「研究発表と討論の場を提供すること」であるとする、学会運営を行う側としては、この基本サービスが十分に機能しているかどうかを常にウォッチし、その機能が最大限達成されるよう、可能な施策を考案・実行してサービスの充実に務めることが最大の責務ということになります。本学会が提供する「研究発表と討論の場」は、主として各種研究会（及び大会）と論文誌ということになります。研究発表を希望する会員にとって、発表の機会は可能な限り早いに越したことはありません。研究会の開催は可能な限り頻度の高いことが望まれます。また同じ趣旨を論文誌に当てはめると、できるだけ速かな査読を実現する、ということになりましょう。査読に関しては、それが学会論文の質を定め、ひいては学会の品格を定めることを十分に認識する必要があります。査読は迅速であることに加えて、公正かつ厳格であることがこの上なく重要となります。もう一つの重要ファクタはサーキュレーションです。特に論文誌ではサーキュレーションは最重要の評価尺度です。会員の発表成果が、世界のできるだけ多くの研究者に見てもらえるような、ネットワーク時代に適合したサーキュレーションの仕組みが要請されます。

日本の学会である以上和文論文の存続を維持すべきことはそのとおりと考えます。しかし、本学会では英文論文に対する和文論文の割合は年々減少しております。グローバル化の進む今日においては、英語による研究成果の発表を中心（の一つ）に置いていかざるを得ません。すると、我が電子情報通信学会の最大のライバルは IEEE ということになります。明らかに IEEE は多くの点において本学会 IEICE を凌駕しています。このことは事実として直視し、見習うべきは見習いつつ、こちらの優れた部分を伸ばしていくことが学会の将来を開く正道と考えられます。本学会の査読システムは、IEEE と比べてそのスピードにおいて大変優れ、海外からの投稿を含めて本学会論文数の増加に大きく寄与してまいりました。

一方、IEEE は Xplore という、大きなアーカイブ／検索システムを既に持っています。またリポジトリと称して各大学が職員の論文等を保存・公開するシステムを構築しつつあります。このような状況のもと、本学会にとっても IEEE の Xplore に相当するシステムの構築が急務と考えられます。同時に適切かつ積極的な宣伝を行って本学会のプレゼンスを高め、世界に広く本学会の存在を浸透させることが、基本サービスの実現並びに充実のための基本戦略になります。こうした努力の積み重ねによって、学問・技術の健全な発展を通して人類の平和と繁栄に寄与していくという、学会本来の目標に近付くことができましょう。